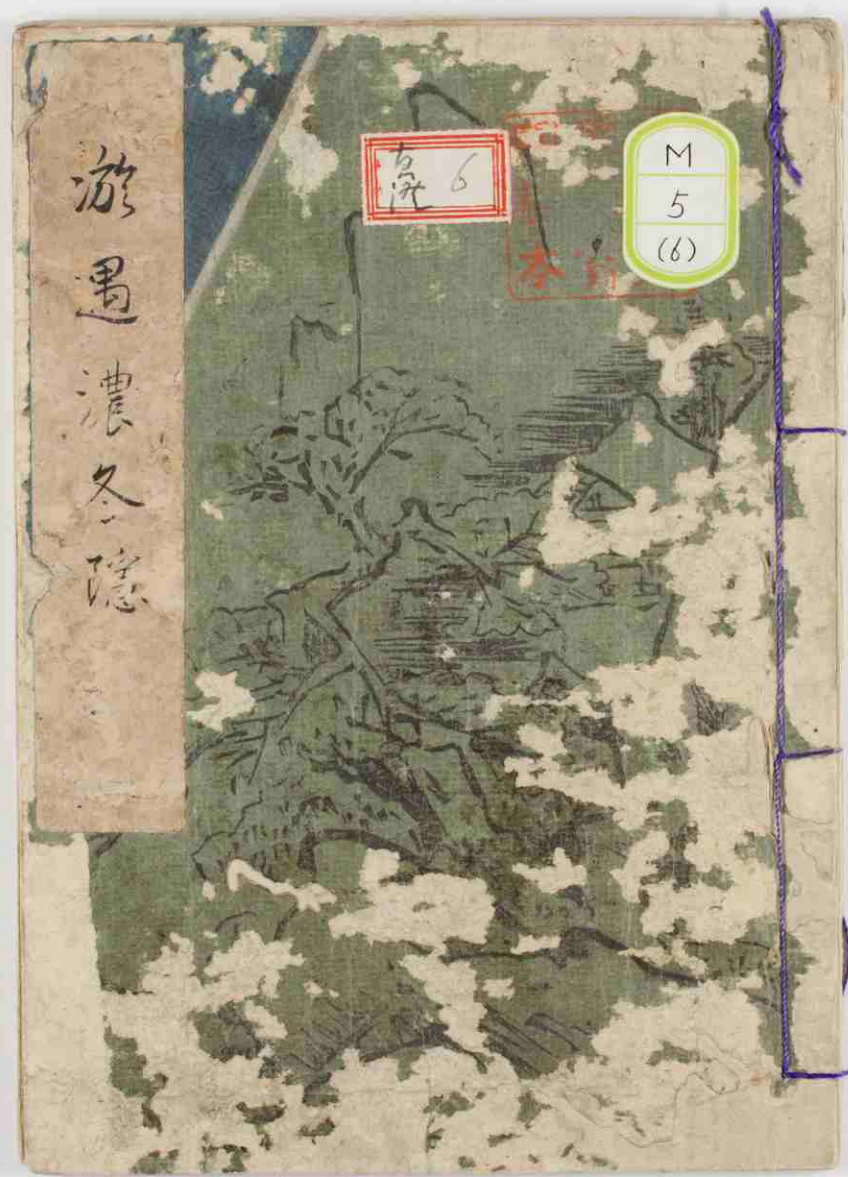


虫食いあり

破損あり

以下 汚れあり

1/19



らつきえらひの
村中母部と
あすあありを
保の州あひ
りちとつち
保口を夫向
かまひもや
名かりてし
報身いさる
といひた
あしは

三月一日石持子山里に在る石神と傳へたる
谷のあり日比のあふりしと目名村より鹿橋
とてそりありありあはも子もあはれ
深の色のおうりあはれ里近に在りし難あり
母衣崎明神と唱ふ所の村を大利とて名こひ
いに住る伊奈崎よりいさほりくそらそを
神もつとてしとてのひちもあめて
すも民と伝へるは海に在る國置の保呂崎の神
畑中誰れとて屋のよりあはれあはれあはれ
子年のあせあはれ岩ありそのあはれつとて
せころり栗原郡七の社ひらり彦八井耳命と
あつとて遠流志別石神と名つる

北務正前
 高船とてや
 ふれめり
 舟
 死
 山
 〇

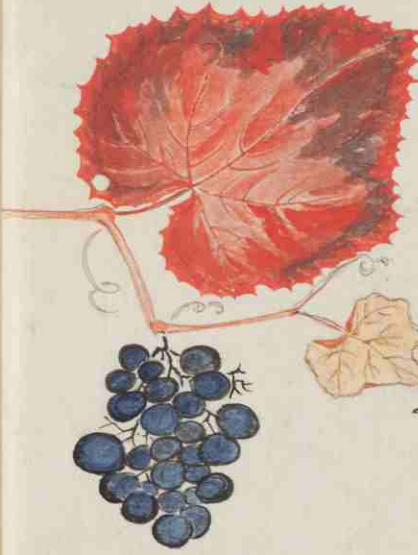
かくはかゝる事にしてわづら女あつたやあつたな
 あつたやあつたな座頭皮子とて薄くあつたやあつたな
 あつたやあつたな座頭皮子とて薄くあつたやあつたな
 あつたやあつたな座頭皮子とて薄くあつたやあつたな
 あつたやあつたな座頭皮子とて薄くあつたやあつたな
 あつたやあつたな座頭皮子とて薄くあつたやあつたな
 あつたやあつたな座頭皮子とて薄くあつたやあつたな
 あつたやあつたな座頭皮子とて薄くあつたやあつたな
 あつたやあつたな座頭皮子とて薄くあつたやあつたな
 あつたやあつたな座頭皮子とて薄くあつたやあつたな
 あつたやあつたな座頭皮子とて薄くあつたやあつたな

かくはかゝる事
 かくはかゝる事

借の火もあつたやあつたな海ひらひらとあつたやあつたな
 あつたやあつたな海ひらひらとあつたやあつたな
 あつたやあつたな海ひらひらとあつたやあつたな
 あつたやあつたな海ひらひらとあつたやあつたな
 あつたやあつたな海ひらひらとあつたやあつたな
 あつたやあつたな海ひらひらとあつたやあつたな
 あつたやあつたな海ひらひらとあつたやあつたな
 あつたやあつたな海ひらひらとあつたやあつたな
 あつたやあつたな海ひらひらとあつたやあつたな
 あつたやあつたな海ひらひらとあつたやあつたな
 あつたやあつたな海ひらひらとあつたやあつたな

村境をわたり
 鹿

山蒲陶あるは黒蒲葡萄
大媽とうしつり此うらめ茶
のちれいあふまじきあなまき
あつり室ハあつりあつり
地あつりあつりあつり



小蒲陶
あつり
左本豆三良
味あつりあつり

今く本海(海)の此屋又山田屋の山屋あつり
あつり鹿のこつりあつり

山賊の我らの田原引板をわひく心平屋の
三目おれは直筋梅のあつりあつりあつり
あつりあつりあつり

神屋名おれあつりあつりあつりあつり
目朝の海敦加買の浦あつりあつりあつり
あつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり

六月庚申すあつり夜あつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり

と申すにやあはし

十日の橋の上より、碓氷橋と河津段へ入る。其の
くち舟にて舟人あつち舟にのりて、舟にのりて舟人
あつち舟にのりて舟人あつち舟にのりて舟人

十日の朝、山家屋敷にて、舟にのりて舟人あつち舟
あつち舟にのりて舟人あつち舟にのりて舟人

十日の朝、山家屋敷にて、舟にのりて舟人あつち舟
あつち舟にのりて舟人あつち舟にのりて舟人

十日の朝、山家屋敷にて、舟にのりて舟人あつち舟
あつち舟にのりて舟人あつち舟にのりて舟人

十日の朝、山家屋敷にて、舟にのりて舟人あつち舟
あつち舟にのりて舟人あつち舟にのりて舟人

三盛と申すは、
皆同事なり
又、皆同治と
申すは、皆同
治なり

十日の朝、山家屋敷にて、舟にのりて舟人あつち舟
あつち舟にのりて舟人あつち舟にのりて舟人

廿三日 吉野のいなかへきて...
廿六日 吉野のいなかへきて...

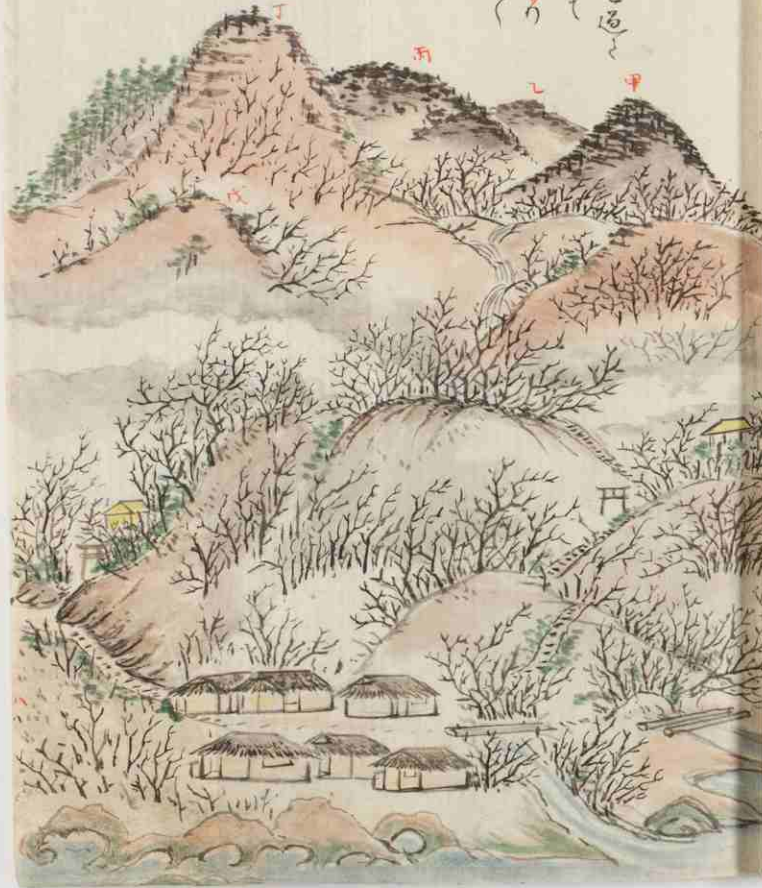
廿七日 吉野のいなかへきて...
廿八日 吉野のいなかへきて...

廿九日 吉野のいなかへきて...
三十日 吉野のいなかへきて...

女瀧見傳ひ...
本流の池田...
廿日 吉野のいなかへきて...

甲松倉山
乙朝日山
丙左藤苗平山
丁黒杜山
戊前黒森山

七里の山路
血の村小川
小川の流る
尺布のやう



とて有るのけりていづていづての山脈つすはる岩岩
とせゆりて偏提線の水やありとていづていづて
層流を黒木林の下のちをちのちのちのちのち
浪もいづていづていづていづていづていづていづて
今とて草を地こころのちを埋れり
ゆりのちの高嶺のちのちのちのちのちのちのちのち
とていづていづていづていづていづていづていづて
市代代のちのちのちのちのちのちのちのちのち
あつていづていづていづていづていづていづていづて
かていづていづていづていづていづていづていづて
とていづていづていづていづていづていづていづて
標もいづていづていづていづていづていづていづて



山の人ひて
 借のこも
 けいん長
 けいん長
 けいん長
 けいん長
 けいん長
 けいん長
 けいん長
 けいん長
 けいん長

十一日みかともありて今井常通の如き
 われは高瀬頼の朋をいりてあるべきと語り言
 十三日くのさかひ大畑小畑常親の常如年
 わのとり小大常りの此程の常月とて此分あり
 あらまのめり日好少時少ふあうのみ此程
 本わはれりしてをまにすべしとていふ
 多る伐んあをらけりてとていふ
 けいん長ははにそこの枝は枝とていふ
 うのい贈りかしてそこの夜のそこの枝は枝とていふ
 立ぬ明はけり人もそこの枝は枝とていふ
 海に飯成の神の如し給ふやとていふ

かきひのちかき出てきたあまのつらあのを雪に路は温か
 かりぬりし馬のりしと今もあまのつらあまのつら
 道に岡根村もこれかまのつらあまのつらあまのつら
 湯子岸ぞりてきよひとて今草のつらあまのつらあまのつら
 きより小くこれと夜はつらあまのつらあまのつらあまのつら
 せむしかなあつらぬり小つらあまのつらあまのつらあまのつら
 ぬり小つらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら
 とあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら

まのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら
 きよひあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら
 小つらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら
 あまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら

道にゆきとてゆきとて直所にあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら
 とあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら
 海にゆきとて村とて與左衛門とてあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら
 ぬり小つらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら

二十日田名府小つらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら
 あまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら

園山とてゆきとて夜もあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら
 ぬり小つらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら

廿二日あまのつら日記とてあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら
 あまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら
 細寧於中路とてあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつらあまのつら

成章

十二日おちの末村ありふりひまわりあり
かきつれいとうにけりてまきう後をうじ

鉢の本意はまき火藏のう

まきとてとせなほにあらしきありあき
口よりあらまきりて此和句とつら

雪の一夜とうまき小倉

二三日ありて津刈路と村各とてつら

嗚呼雪のりまき記多強なる

本村のりまきとてわきせり

海田のりまきとてわきせり

十九日と井高道のりまきけり口三井ヤの言
とやてりまきとて

多
モノウカノス子ヤカ、テレホ、ウエツウエ

花
ツウエト、ウエシヤウ、セホウウエツカ

まのころとわきし

まのころとわきし

二十日地里とせりてまきとてわきせり

寒さといふまにまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

地ひらきとてまきとてわきせり

まの日記... 中場也

憐彼遠遊客 旅愁幾度寛

被芳郷國夢 可起歸歎嘆

明日春將立 莫應年茲闌

興風忽滿袂 一夜忍邪寒

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

とみ秋てかんよのせふま海

月との名をいふんはともちのあまのつと

廿六日夕まそね糸とふしははらひひるひ

月と日色言ひあふあみちの常人の言

廿八日あとも地厚の小ちれわうて大のきあ

じつきの船とうきいふれとあまうきとらぬ

大橋の上より見ればかかはいなる河津ま

鴛鴦

鳴る

あのみちをわたりてあまのきこむ春とあ

50



破損あり

虫食いあり

